

ハッピー子育て

か る た



みなさん、こんにちは！先日、長女が結婚式をすることになり、30年前に着たウエディングドレスを引っ張り出しました。無謀にも私が着てみたら、背中ファスナーが腰より上に上がらず、大笑い。私は小学生の頃、ちょっとしたことで落ち込む繊細な子どもでしたが、高校生の頃にはだいぶ図太く、人の目をあまり気にしなくなっていました。そして今、内面は大して変わっていません。子どもの頃はところが大きく変化し、大人になると体型だけが大きく変化する。真実、恐るべし（笑）



☆読み手☆
鈴木 裕美（すずき ひろみ）
香川大学医学部 小児科専門医

60

げん

き

な時は 正論

叱咤

激励

受け入れ可

弱

ってるときは

すべてが刃物



59

た

だ

し

さを

優先するべき

時もある

やさしさを

よりも



今月のかるた解説

子どもに何を話すか、話してはいけないかに、正解はないのではないかと思います。親として子どもの成長のために、伝えたいことはたくさんあるはずですが、大切なのは話すタイミングではないでしょうか。宿題は全部終わらせるべき、頼まれたことはきちんとするべき、無理してでも頑張れば成長できる。こうした正論や叱咤激励は、子どもが言い返したり、スルーするくらいの「元気さ」がある時なら、言っても大丈夫。

一方で、「学校がしんどい」「自分はダメな人間だ」ところが疲れているときは、すべての正しさが刃物になり、傷を深めてしまうことがあります。そんなときは、「そういう時もあるよね」「いまできなくても大丈夫」と、やさしさを優先した方がいい場合もあります。それは甘やかしてではなく、こころの包帯のようなものです。寒風摩擦は身体にいいと言われますが、傷だらけの皮膚にやるのは拷問ですよ。でもタイミングを見誤ることは誰にでもあります。私も先日、娘を傷つけてしまいました。だからこそ、話す前に子どもをよく見て、今は元気モードか、落ち込みモードかを確認したいですね。……これも自分に言っています（笑）。ぜひ、ご一緒に。

